



研究主題

外国語を通して、すすんでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成

目指す児童像（中学年ブロック）

外国語に慣れ親しみ、自分のことを伝え、相手のことを知ろうとする児童

第2回 研究授業報告 6月4日（金）第3学年 How many?

授業者：T1 黒川 晃文 ALT：祁答院 恵子
講師：玉川大学教職大学院 名誉教授 佐藤 久美子先生

【本時のねらい】

数を尋ねたり答えたりして、オリジナルバスケットを作る。

【授業のポイント】

単元のゴールに友達同士のインタビューを通してオリジナルのフルーツバスケットを作ることを設定しました。相手から好きな果物の個数を聞かれたり、友達に自分の好きな果物の個数を伝えたりすることで、「相手に数を尋ねたい。」「数を答えたい。」という児童の気持ちが高まり、やり取りを通して意欲的に活動に取り組めるようにしました。また、タブレットを活用したやり取りの活動を行いました。画面上の果物を動かして、フルーツバスケットを作る等の体験的な活動を通して、場面に応じたやり取りについて児童が思考し、意欲的にやり取りの活動に参加すると考えました。

【授業の様子】



【児童の様子】

- フルーツバスケットを作るために、積極的に英語を使って伝えたり相手の欲しいものの数を正しく聞いたりしようとしていた。
- 「いらっしゃいませ」など、やり取りに使いたい英語を意欲的に質問し使おうとしていた。

【講師の佐藤先生より】

word corner を通して、子どもが知りたい単語を増やしていくことはよい。辞書を引かせるようになったら、和英だけでなく、英和でも引かせて例文を確認する等できる。評価は「いろいろな場面で」「いろいろなときに」「いろいろな方法で」行うことができる。やり取りをしている時の会話やジェスチャーでも、お店屋さんらしいやり取りかできたかななどで評価ができる。単元の最後は全員発表させたい。難しい場合は2列のみ発表する等して、子どもに発表への自信をつけさせていく。発表した児童の表現を全体で共有すると、「ああ言えばいいんだ!」「次言ってみよう!」と思い、次の活動に意欲的に取り組むことができる。

様々な御指導をいただきました。今回の研究授業を生かして、より一層、授業力向上に努めていきます。

